

自治体と大学連携に関するアンケート調査 (中間報告)

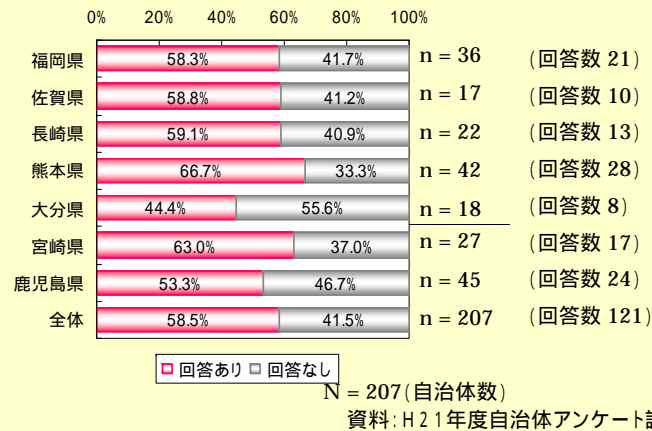
地域づくりに関する自治体と大学の連携について

九州圏の小規模・高齢化集落への支援を今後検討していく上で、その役割が期待される大学を抽出するため、九州圏の自治体に対するアンケート調査を実施し、自治体と大学の連携状況について確認した。

自治体と大学の連携に関するアンケート（配布数：207市町村 回収率58.5%）平成22年3月1日現在

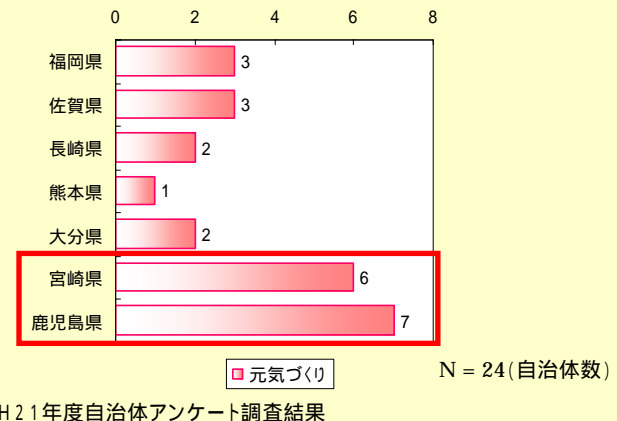
県別アンケート回答率

アンケート回収率は全体で58.5%であり、121自治体から回答があった。



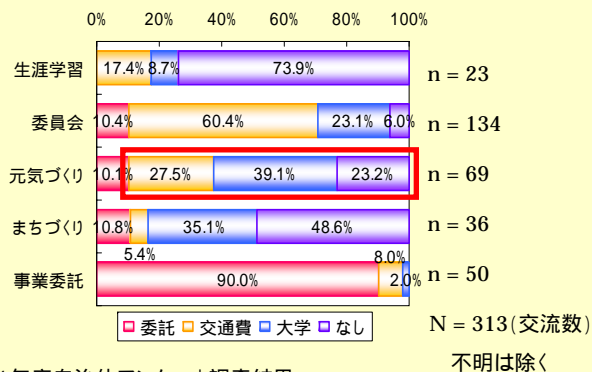
地域づくりにおける九州の自治体と大学の連携状況について

小規模高齢化集落の問題が特に懸念される宮崎県、鹿児島県において、集落元気づくりに関わる自治体と大学の連携が盛んである。



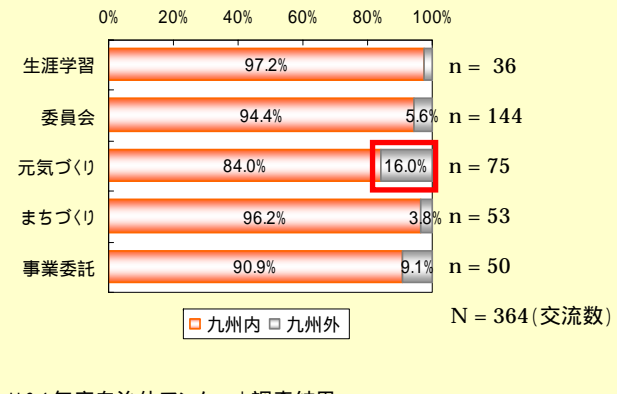
地域づくりの連携における費用負担の方法について

地域づくりの連携において、検討委員会への委員就任が最も多く、次いで元気づくりであった。集落元気づくりの費用負担で最も多いのは「大学負担」であり、「交通費」程度あるいは「報酬なし」においてこれらの活動の多くが実施されている。



大学の地域づくりに対する支援の内容と大学立地について

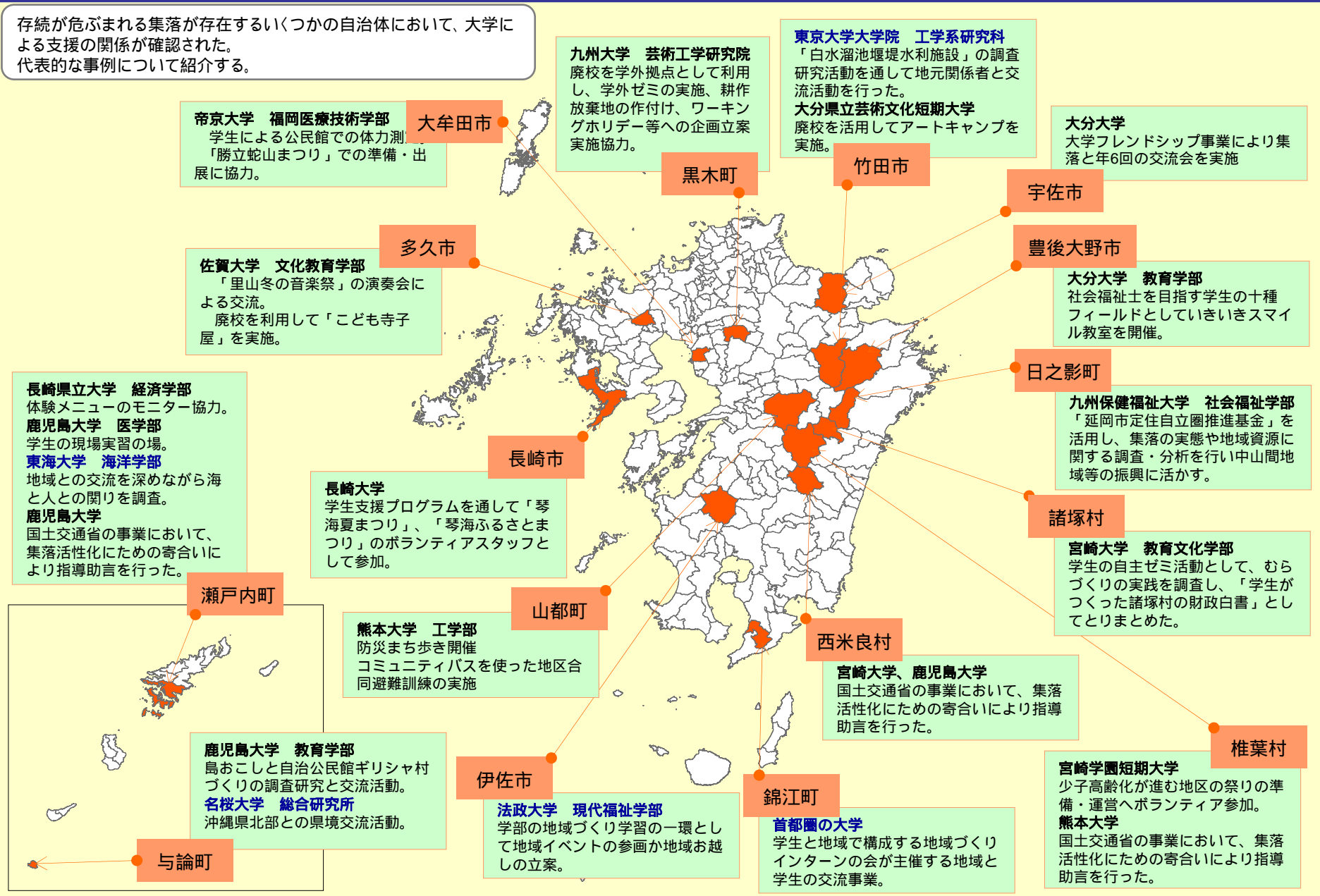
集落元気づくりへの取組を見ると、九州圏外の大学との交流が比較的多い。



地域づくりに関する自治体と大学の連携について

大学の集落元気づくりに対する支援事例

存続が危ぶまれる集落が存在するいくつかの自治体において、大学による支援の関係が確認された。代表的な事例について紹介する。



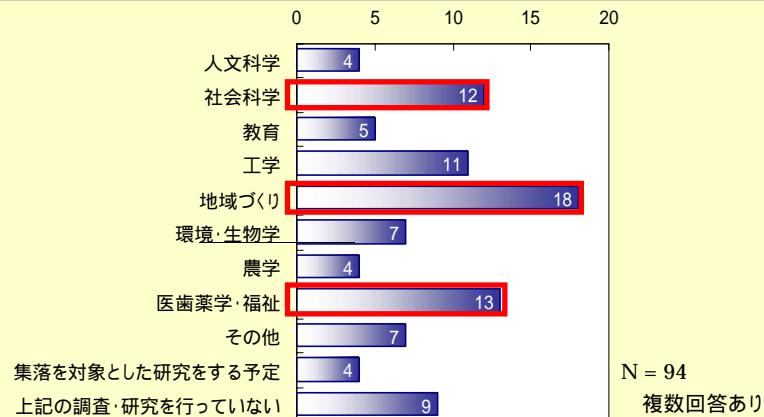
地域づくりに関する自治体と大学の連携について

九州圏の小規模・高齢化集落への支援を今後検討していく上で、その役割が期待される大学(研究室単位)を抽出し、アンケート調査により各大学・研究室の研究・調査・支援の実態について確認した。

大学の地域づくり・集落支援に関するアンケート(配布数: 211研究室 回収率22.7%) 平成22年2月25日現在

地域づくり・集落支援に関わる研究者の調査・研究分野について

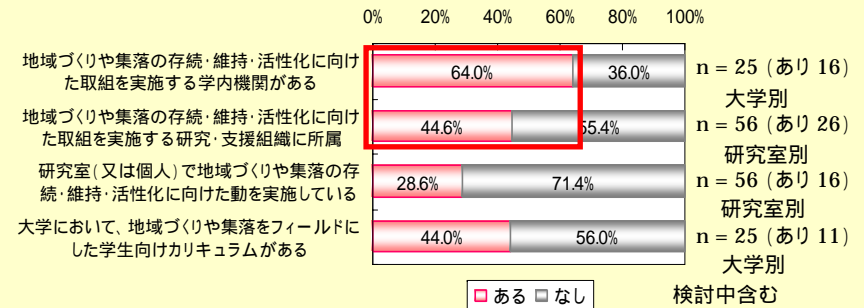
研究分野では、「地域づくり」が最も多く、次いで「社会科学」、「医歯薬学・福祉」となっている。



資料: H21年度大学アンケート調査結果

大学における地域づくりや集落の存続・維持の活性化の状況について

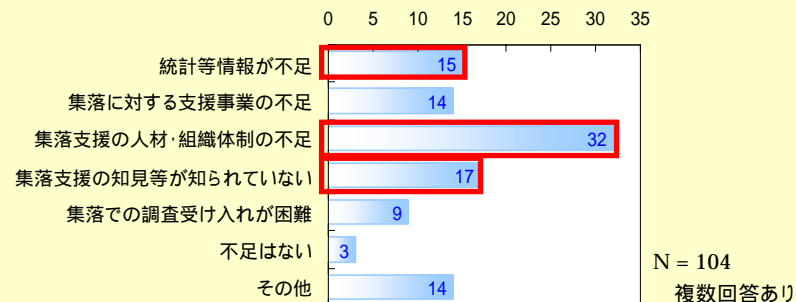
大学の状況については、「学内機関がある」、「活動を実施している」大学の割合が半数以上を占めている。



資料: H21年度大学アンケート調査結果

地域づくり・集落支援に関する調査・研究において認識される課題について

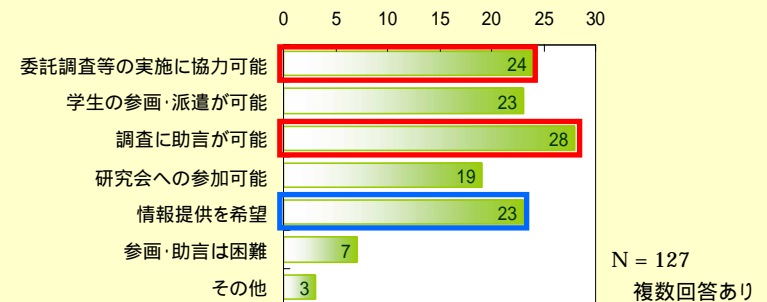
調査・研究上の課題では「集落支援の人材・組織体制の不足」が最も多くなっていた。次いで「集落支援の知見等が知られていない」、「集落に対する支援事業の不足」などがあげられている。



資料: H21年度大学アンケート調査結果

大学の地域づくり・集落支援への協力可能性について

協力可能性については、「調査に助言が可能」が最も多く、次いで「委託調査等の実施」や「学生の参画・派遣が可能」となっていた。また、「情報提供を希望」の回答が多く、本テーマへの高い関心が見られる。



資料: H21年度大学アンケート調査結果